

認定看護師教育基準カリキュラムの概要
(特定行為研修を組み込んでいる教育課程：B課程教育機関)

分野	がん放射線療法看護
作成年月	平成 31 年 3 月
【趣旨】	
<p>目指すべきがん放射線療法看護認定看護師像は、小児から高齢者まで放射線治療を受ける対象の個別的な放射線治療計画を理解し、治療完遂するための支援ができること、急性期から晩期までの有害事象のアセスメントを行い、患者の QOL を維持したセルフケア支援ができること、放射線治療を受ける患者・家族の状況を理解し、意思決定を尊重した支援ができることとした。これらを踏まえ、現行の基準カリキュラムを元に、新たな基準カリキュラムを作成した。</p>	
【組み込む特定行為区分】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」 	
【詳細】 〈 〉は単元、『』は新たな基準カリキュラムの教科目、「」は現行の基準カリキュラムの教科目を示す	
<p>1. 認定看護分野専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『がん看護学総論』『腫瘍学概論』『がんの医療サービスと社会資源』は、がん看護領域 4 分野(緩和ケア、がん薬物療法看護、がん放射線療法看護、乳がん看護)においてがん看護の知識の基盤となる学習内容として統一した。現行の基準カリキュラムでは、専門基礎科目でいくつかの合同授業が可能であったが、各分野によって少しずつ教科目の学習内容が異なっているため合同授業のできる時間数は少なかった。そこで、がん領域の認定看護師の基礎となる学習内容を揃え、将来的に合同授業や共通した教材を活用できるようにした。 ・現行の「ヘルスアセスメント」は、新たな『臨床推論』、『フィジカルアセスメント』の内容と重複するため削除した。 ・『がん放射線療法概論』は、免疫放射線療法を含む併用療法、治療計画を読み取る知識と技術の習得についての内容を追加した。 ・現行の「対象に合わせた放射線療法と看護」は、目的別、成長発達段階別の標準治療法と放射線治療計画についての内容を追加し、新たに『対象に合わせた放射線療法と治療計画』とした。非がんは対象から外した。 ・現行の「がん放射線療法を受ける患者と家族への心理及び社会的看護支援」は、患者・家族を包括的にアセスメントする方法と看護支援についての知識が得られる構成とし、新たに『がん放射線療法を受ける患者・家族の包括的アセスメントと看護支援』とした。 ・現行の「がん放射線療法に伴う有害事象マネジメントとセルフケア支援」は、他教科目と重複する内容を整理し、患者指導、相談支援、事例検討を追加した。 ・現行の「放射線療法における放射線の安全な取り扱い」は、看護師だけではなく、施設内職員の放射線防護に関する教育と方策について検討する時間を追加し、新たに『放射線療法における放射線防護と安全管理』とした。 <p>2. 統合演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習で受け持った患者の看護過程をケースレポートとしてまとめ、他者とのディスカッションを通じて、がん放射線療法を受ける患者に対して認定看護師としての看護支援方法を習得するためのものとした。 <p>3. 臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者数は、実践内容を強化するために 2 名以上とした。 	